

岩手県雫石町における小学校区の地域的特性

吉田 理奈

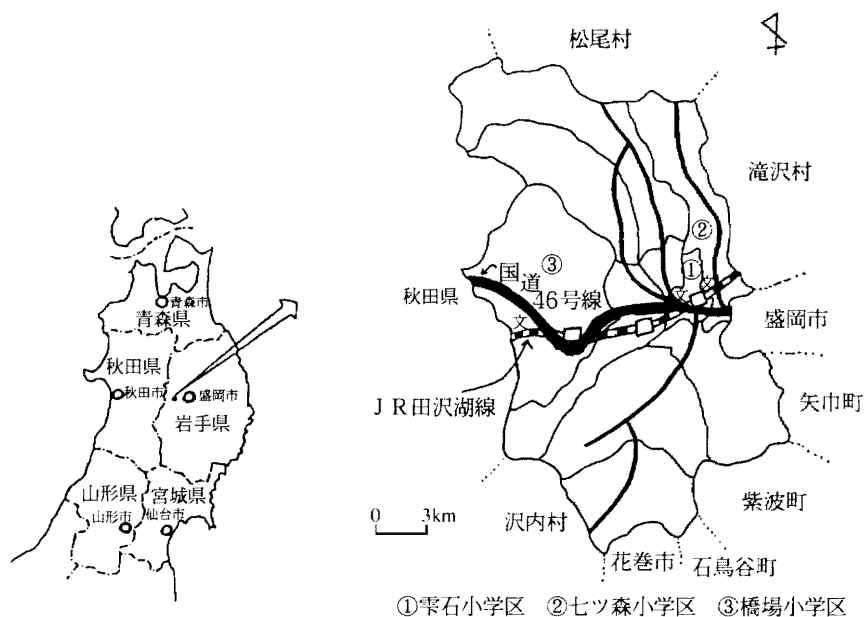
I. はじめに

学校、特に小学校においては、長期間にわたって一つの学校に通学し、様々な行事を共にするため、児童同士ははもちろんのこと、その父母や学区内の住民にも深い関連が生じてゆくものである。つまり、学区は一種の社会領域としての役割を有しているといえる。

そこで、本研究では、岩手県雫石町を研究対象地域として取り上げ、町立小学校の学区の地域的特性について考察することを目的とする。研究対象校は、町立小学校全10校のうち、町内で最大規模である雫石小学校、唯一児童数が増加傾向にあり、町内では中規模校にあたる七ツ森小学校、町内の小規模校の一つであり準僻地校に指定されている橋場小学校の3校である。

II. 研究対象地域の概要

対象地域は、岩手県の県都盛岡市の西方16kmに位置する雫石町である(図1)。平成9年11月現在、総人口は19,698人、世帯数は5,570世帯で、現在、人口数、世帯数ともに微増傾向にある。しかし、小学校に通う児童数は雫石町でも少子化の影響により近年、減少傾向にあり、平成9年4月現在、1,274名の児童が町内の各小学校に在籍している。



(しずくいしデータブック'97・雫石町学区図より引用・作成)

図1 研究対象地域と研究対象校区

社会的には、盛岡都市圏の一部に含まれており、交通体系が盛岡を中心として整備された一日行動圏であるため、盛岡市に通勤通学する者も多い。さらに、平成8年の秋田新幹線の開通に伴い、雫石駅が新幹線停車駅となり、秋田県や首都圏とのアクセスも向上した。このような交通の利便性は今後の町の発展に何らかの効果をもたらしていくものと予想される。

Ⅲ 研究対象校とその学区の概要

(1) 雫石小学校

雫石小学校は、町内では最大規模の小学校である。児童数は全校で395名で、学級数は単式学級が各学年2学級ずつと町内唯一の特殊学級1学級の計13学級である。創立は明治7(1874)年で、学制の公布に基づき「雫石学校」として始まった。現在、町内第9地割字源太堂に位置し、周囲には商店街や役場、中央公民館、図書館などの官庁施設、公共施設が立ち並ぶ。また、徒歩3分のところにはJR雫石駅もみられ、町内の中心部といえる場所に立地していることが特徴である。

(2) セツ森小学校

セツ森小学校は、町内では2番目の児童数であるが、雫石小学校に比べ児童数が約半分である。その児童数は全校で197名で、学級数は単式学級が1～4・6学年で1学級ずつ、5学年は2学級の計7学級である。創立は昭和60(1985)年で、それまで小岩井農場内にあった「小岩井小学校」の老朽化、町が行った東町地区への町内最大規模の団地造成による児童数の増加、これに伴う住民の熱い要望により学区再編成が行われ、現在地に新「小岩井小学校」として始まった。同年10月には条例の改正により、校名を現校名に変更した。現在、町内第9地割字セツ森に位置し、背後には森林が広がり、豊かな自然に囲まれた場所に立地している。また、周囲には、肢体不自由児や高齢者のための県立の社会福祉施設が立地していることが特徴である。

(3) 橋場小学校

橋場小学校は、町内10校中9番目の児童数で、小規模校の1つであり、準僻地校の指定を受けている。その児童数は全校で25名で、学級数は、複式学級が1・2学年、3・4学年・5・6学年に1学級ずつの計3学級である。創立は明治12(1879)年で、教育令の公布に基づき、「橋場小学校」として始まった。現在、町内大字橋場第4地割字安栖に位置し、山間を走る国道46号線沿いで交通量は多いものの、山々に囲まれ集落も少ない過疎的な山村地域である。この国道沿いには当地域の住民の地域活性化を期待する要望によって「道の駅」の建設が決定された。

Ⅳ 学区の地域的特性

(1) 児童の通学について

雫石小学校では、1km以内の距離から通学する児童が約半数を占めている(表1)。これは、小学校が町の中心部に立地しており、学校を囲むようにして集落が分布しているためと考えられる。セツ森小学校は、1km以内の距離から通学する児童は他の学区よりはるかに少ない。これは、学校

が周囲に集落のない自然豊かな土地に新しく造成され作られたためであると考えられる。一方、1～2kmの距離から通学する児童が約半数を占めている。これは、その範囲内に東町、七ツ森といった住宅街が含まれているためと考えられる。また、他の学区に比べて2km以上の遠距離から通学する児童の割合が高いが、その大部分が小岩井農場の構内に居住している農場関係者の集落がみられるためと考えられる。橋場小学校は、6割近くが1km以内、9割以上が2km以内の距離から通学する児童である。学区自体は最長8.5kmと広いものの、大部分が山林で、集落をなすのは限られた4地区で、これらがその範囲内に分布していると考えられる。

表1 各小学校区の通学距離の分布

(単位：人)

	雫石小学校	%	七ツ森小学校	%	橋場小学校	%
～ 1 km	56	50.9	11	11.3	10	58.8
～ 2 km	30	27.3	56	57.5	5	29.4
～ 3 km	19	17.3	18	18.6	1	5.9
～ 4 km	5	4.5	8	8.2	0	0
それ以上	0	0.0	4	4.1	1	5.9
合計	110		97		17	

(アンケート調査より作成)

(2) 人口的特性について

第1に、各学区の児童数、人口数、世帯数の変化についてである(表2)。雫石小学校区は、児童数は減少、人口数、世帯数はともに増加している。増加率は人口数より世帯数のほうが高い。したがって、1世帯当たりの人口数は減少傾向にあり、少子化が進んでいるものと考えられる。七ツ森小学校区は、児童数、人口数、世帯数ともに増加している。そして、そのそれぞれが町全体の値をはるかに上回っている。したがって、町内では例外的な人口急増地域であるといえる。また、唯一児童数が増加していることから、若い夫婦の世帯が増加していると考えられる。橋場小学校区は、児童数、人口数、世帯数ともに減少している。そのそれぞれが町全体の値をはるかに下回っている。特に、児童数の減少率が高い。したがって、過疎化が進行する中でも特に少子化、高齢化が進行していると考えられる。

表2-1 児童数の変化

児童数の変化	(人)			(昭和60年=100)		
	S60年	H2年	H7年	S60年	H2年	H7年
町全体	1,597	1,493	1,371	100	93	86
雫石小	565	495	409	100	88	72
七ツ森小	162	182	191	100	112	118
橋場小	47	35	30	100	74	64

※Sは昭和、Hは平成を表す。
(国勢調査報告より作成)

表 2-2 各学区の人口数の変化

各学区の人口数の変化 (人)				(昭和60年=100)			
	S 60年	H 2年	H 7年		S 60年	H 2年	H 7年
町 全 体	19,127	19,107	19,373	町 全 体	100	99	101
雫石小	5,372	5,804	5,926	雫石小	100	108	110
七ッ森小	1,801	1,981	2,267	七ッ森小	100	110	126
橋場小	533	518	489	橋場小	100	97	92

表 2-3 各学区の世帯数の変化

各学区の世帯数の変化 (人)				(昭和60年=100)			
	S 60年	H 2年	H 7年		S 60年	H 2年	H 7年
町 全 体	4,795	4,938	5,307	町 全 体	100	103	111
雫石小	1,533	1,702	1,821	雫石小	100	111	132
七ッ森小	525	589	692	七ッ森小	100	112	132
橋場小	126	124	123	橋場小	100	98	97

※Sは昭和、Hは平成を表す。
(国勢調査報告より作成)

第2に、家族構成についてである(表3)。世代構成については、雫石小、七ッ森小の各学区で二世世代家族が半数以上を占め、核家族化がうかがえる。橋場小学校区でも4割以上が二世世代家族である。その中で唯一三世以上上の大家族が二世世代家族を上回っているのが橋場小学校区である。家族構成員数についても同様の傾向がみられ、雫石小、七ッ森小の各学区で4人、5人が最も多いのに対して、橋場小学校区は6人家族が半数以上を占めている。したがって、全体的に核家族化の傾向がみられるが、それは雫石小、七ッ森小の各学区で顕著にみられ、橋場小学校区では大家族が依然多くみられると考えられる。

表 3-1 家族の構成員数

(単位:人)							
	雫石小学校		七ッ森小学校		橋場小学校		
		%		%		%	
2 人	3	2.8	1	1.1	0	0.0	
3 人	11	10.1	2	2.2	1	5.3	
4 人	27	24.8	33	37.1	2	10.5	
5 人	31	28.4	20	22.5	3	15.8	
6 人	23	21.1	14	15.7	11	57.9	
7 人	10	9.2	14	15.7	2	10.5	
8人以上	4	3.7	5	5.6	0	0.0	
合 計	109		89		19		

(アンケート調査より作成)

表3-2 家族の構成世代

(単位：人)

	雫石小学校	%	七ツ森小学校	%	橋場小学校	%
二世 代	51	52.0	52	54.2	12	44.4
三世代以上	47	48.0	44	45.8	15	55.6
合 計	98		96		27	

(アンケート調査より作成)

第3に、産業別就業人口についてであるが、第3次産業に従事する割合が高いことが各学区に共通している(表4)。3つの学区を比較すると、雫石小学校区は専門職に従事する割合が高いこと、七ツ森小学校区は製造職の割合が高いこと、橋場小学校区は運輸職・建設職に従事する割合が高いことがそれぞれ特徴である。次に、勤務地の分布についてであるが、各学区とも雫石町内と盛岡市内内で約9割前後を占め、雫石町は盛岡都市圏の機能の一翼を成していることがうかがえる。それぞれの学区の特徴的な点をあげると、七ツ森小学校区では、その他の割合が比較的高く、このうち約半数が滝沢村であった。これは、滝沢村が町東部に位置しており、学区と近接しているためと考えられる。橋場小学校区は町内に就業する割合が高い。これは、町内で最も西側の秋田県境に位置しており他の学区に比べて他の市町村への通勤が困難であるためと考えられる。

表4-1 農業就業人口

(単位：人)

	雫石小学校	%	七ツ森小学校	%	橋場小学校	%
専業農家	0	0.0	0	0.0	1	5.3
兼業農家	23	20.9	13	14.3	9	47.4
行っていない	87	79.1	78	85.7	9	47.4
合 計	110		91		19	

表4-2 産業別就業人口

(単位：人)

	雫石小学校	%	七ツ森小学校	%	橋場小学校	%
事務職	24	21.1	29	29.9	5	21.7
専門職	29	25.4	19	19.6	3	13.0
製造職	8	7.0	23	23.7	2	8.7
運輸職	10	8.8	7	7.2	4	17.4
建設職	9	7.9	5	5.2	3	13.0
サービス職	31	27.2	13	13.4	4	17.4
その他	3	2.6	1	1.0	2	8.7
合 計	114		97		23	

表4-3 勤務地の分布

(単位：人)

	雫石小学校	%	七ツ森小学校	%	橋場小学校	%
町 内	50	45.5	43	45.3	11	57.9
盛岡市内	50	45.5	40	42.1	7	36.8
その他	10	9.1	12	12.6	1	5.3
合 計	110		95		19	

(アンケート調査より作成)

(3) 学校と家庭・地域とのつながりについて

雫石小学校区は、家庭とのつながりについて、家庭よってのギャップがみられる学区である。PTA役員になった父母は積極的に学校の活動に参加するが、その他の父母は役員に依存する傾向があるという。地域とのつながりについては、行事との関連が主である。

七ツ森小学校区は、家庭とのつながりについて、地区によるギャップがみられる学区である。学校創立以前から居住し創立を強く熱望した人々が多く住む地区の方が学校創立後に新しくできた住宅地を多く含む地区に比べて積極的に学校の活動に参加する傾向があるという。地域とのつながりについては、学区内にある社会福祉施設との交流が主に行われている。

橋場小学校区は、家庭も地域も境なく積極的に学校の活動に参加し、学校に対して大きな期待を持っている学区である。小学校は地域にとって唯一の公共施設であり、公民館的役割も担っており、小学校が地域の中心的機能を果たしている。

V おわりに

本稿では、児童の通学、人口的特性、学校と地域とのつながりに着目・検討し、各学区とも小学校の学校規模や学区の環境によって独特の地域的特性をもつことが明らかになった。特に小規模校のある過疎的山村地域においては、学校と深く結びついた地域の運営がなされていることが確認された。

最後に、本論文を作製するにあたってご指導・ご助言を頂きました水野裕先生、後藤雄二先生に感謝いたします。また、資料の提供や相談に応じてくださった盛岡第三高校の石郷岡信行先生、雫石町教育委員会の千葉昇社会教育主事、アンケート調査の実施と聞き取り調査に応じてくださった雫石小学校の高橋脩三校長、七ツ森小学校の遠藤紀哉校長、橋場小学校の吉丸蓉子校長、アンケート調査に応じてくださった各小学校のご父母の方々に感謝いたします。

【参考文献】

- ・石郷岡信行（1991）：岩手県における公立小学校の統廃合に関する地理学的考察
東北地理 43、287 - 297
- ・酒川 茂（1983）：小学校通学区の形成過程－広島市を事例として－
人文地理 35 - 2、20 - 42